

令和 6 年度後期「授業改善メモ」のまとめ

共通教育センターでは、前後期末(クォーター制講義を含む)に、学生を対象として「授業改善に資するアンケート」を実施している。このアンケートの結果に対する所見や、教育改善のための有益なコメント・要望などを、授業担当教員に「授業改善メモ」として提出してもらい、その内容を取りまとめたうえで、ホームページ上に公開している。

以下に、令和 6 年度後期の授業に対して提出された授業改善メモを、

- 1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間
- 2) 受講生が実感する学習成果
- 3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み
- 4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点
- 5) 授業一般に関するもの(授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業など)

に分類し、科目群ごとに紹介する。なお、公開にあたり、記述の一部を整理・編集している場合があるので、その旨ご了解いただきたい。

初年次セミナーⅡ

1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・授業時間外学習の週平均時間についての回答は、「30 分以上 1 時間未満」:39～44%、「1 時間以上 1 時間 30 分未満」:26～43%、「30 分未満」:4～16%、「1 時間 30 分以上 2 時間未満」:11～16%、「2 時間以上 3 時間未満」:11%、「全くしなかった」:3%であった。
- ・多くの学生が「週に 1 時間以上 1 時間 30 分未満」学習していた。
- ・実際の回答者数は少ないが、例年通りにテキスト読了や課題提出を通じて、学生は一定の授業外学習を行っていたと推察された。ただし、文科省が求める大学設置基準の水準には達していなかった。
- ・学習時間としては少なく見えるが、「考える力」の蓄積が最終レポートから感じられた。
(対応、授業改善案)
- ・復習の充実を図るため、リアクションペーパーの課題内容を工夫する(例:単なる感想ではなく、学習成果を具体的に記述させる)。
- ・事前学習の確認や課題提出の声掛けを授業中に引き続き行う。
- ・事前学習・事後学習の位置づけと目的について、学生に対してさらに具体的な説明を行う。

2) 受講生が実感する学習成果

- ・「十分得られた」「おおむね得られた」という肯定的な回答が多かった。100%のクラスが 1 つ、97%のクラスが 2 つ(※いずれも 1 名が「あまり得られなかった」と回答)であった。
- ・重大な問題点の指摘は見られず、総じて学生からのフィードバックはおおむね良好であった。
- ・論証型レポートの構成や書き方を学べた点が好評であった。

(対応、授業改善案)

- ・質問してきた学生は、おおむね回答に満足している様子であり、今後も積極的な質問を促したい。
- ・グループワーク開始時に学生同士が時間進行を共有する取り組みを継続していく。
- ・「書き案内」を適宜教材に取り入れたことが、効果的だった可能性がある。
- ・よりきめ細やかな指導が必要であるとの指摘があった。

3)授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・「積極的に促していた」96%、「おおむね促していた」4%であり、学生が主体的に考察に取り組む環境が整っていたと評価できた。
- ・テキストにある「ピア活動で身につける」という目的を受講生に意識させたことで、授業中の発言・質問・議論が活発に行われた。
- ・教員側の説明を最小限に抑え、授業中にできるだけ多くの執筆時間を確保するよう努めた。
- ・講義時間内で完結できるよう配慮された設計だった。
- ・昨年と比べて、課題チェックを個別対応で実施した。
- ・学生同士のペアワークを促進し、さまざまな相手との協働を推奨できた。

(対応、授業改善案)

- ・状況に応じて臨機応変な対応ができるよう備える意向である。
- ・質問しやすい雰囲気作りや個別の声掛けを続けて、学生へのサポートを強化していきたい。
- ・受講生の発言の機会を設けており、引き続き授業中の主体性や参加度を重視した授業運営を継続していく。

4)授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・「とても良かった」「おおむね良かった」という肯定的な回答が多かった。100%のクラスが1つ、97%のクラスが1つ(グループワークをもっと増やしてほしいとの声)、93%のクラスが1つ(7%が「あまり良くなかった」と評価)であった。
- ・高評価された点は、教員がテキストやワークシートだけでなく、自身の論文や経験を紹介したこと、ペア活動によって他者の視点に触れたこと、発表システムが考えるきっかけになったこと、段階的にレポートを完成させる授業構成であったこと、注意点の繰り返し指摘したこと、論文の悪い例を繰り返し指摘したこと、教材の徹底的な活用したこと、専門性に応じた広いテーマが取り組みやすいことなどが挙げられた。
- ・改善点は、他クラスとの授業内容・課題量の違いや授業外学習の多いこと、授業後半が個人ワーク中心でペアワークが少ないこと、スライドの展開が早く、メモを取る時間がなかったこと、グループワークのメンバーをもっと入れ替えてほしいこと、スライドを授業後に確認したいことなどが挙げられた。

(対応、授業改善案)

- ・学生によってレポートの進捗の差があるため、個人の進度に配慮した授業を行ったが、今後はペ

ア活動も重視していきたい。

- ・スライドを配布しなかった点を、改善点として上げる学生が、何人かいたため、学生にノートを取ることを一層促した上で、部分的なポイントだけは、授業後にアップするようにしたい。
- ・グループワークの進行状況を確認しながら、さらにメンバーの入替の検討を進めたい。
- ・授業回によっては、時間配分を検討し、グループワークの時間を増やしたい。
- ・今後、よりきめ細やかな指導が求められていると考える。また、繰り返している内容の重要性をあらためて解説していく。

5) 授業一般に関するもの(授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業など)

- ・自身のレポートに誤りがないか心配して来る学生が多いが、質問にくる学生は特に問題ないことが多く、本当に問題なのは質問に来ない学生である。
- ・この授業で単位を落とすと進級できない学生もあり、指導には毎年緊張を伴う。落とした場合の経済的負担(約 60 万円)も大きいと、再履修を認めてほしい気持ちがある。
- ・グラフや表に関する内容が少く(初年次セミナー I で扱っているかもしれないが)、もっと補足が必要に感じた。
- ・文献の引用について時間をかけるべきである。
- ・授業構成は、わかりやすいとの評価が多かったが、学習効果は「十分得られた」より「概ね得られた」という声も多かった。
- ・個人ワーク、グループワークとも受講生は積極的に考察に取り組んでいたと感じられる。
(対応、授業改善案)
- ・質問に来ない学生(その多くは、最終レポートの水準がおおむねよくない傾向にある)が、なぜ質問に来ないのか、その原因を分析したい。
- ・学生に対して単位認定を武器にして脅すような指導になってしまっていないか、極めて不安である(そういう指導になると、関係ない学部学科の学生まで被害を被るため)。
- ・「レポートの書き案内」の図表サンプルを使って、図表の構成や基本的ルール等を解説したい。
- ・FD アンケートへの回答を講義時間内に学生にお願いしたが回答数が少なかった。講義最終日に時間を取って回答を促す。
- ・学生自身が、より学習効果を実感できるように、良い例を示したり、上手く書けているところを指摘し合うなど、学習の成果物を褒める時間も作りたい。
- ・時間的な制約は致し方ないが、グループワークの時間をもう少し取れればと感じている。

体育・健康科学理論

1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・「全くしなかった」と回答した学生は 6.0%であり、前期の 13%から大幅に減少したことがわかる。これは、講義内でレポート課題や小テスト、日常生活での健康行動の実践などを取り入れている効果と考えられる。

- ・全 8 回の授業で毎回 manaba にてミニッツレポートを課しているにもかかわらず、依然として「全くしていない」との回答が見られることから、授業時間外の学習時間の確保については、引き続き課題が残っていると言える。

(対応、授業改善案)

- ・理論的に学習したことを実生活に移すことの重要性や、学びを意識して取り組んだことが授業時間外学習になることの周知を図っていききたい。
- ・時間外学習として健康について調べたり、実践した時間も入ることを 1 回目に伝えたが、再度伝えるなどの工夫が必要だと感じた。

2) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・「十分得られた・おおむね得られた」の合算は 99%であった。日常生活における健康の重要性や、体育・健康科学実習と関連した授業内容にしていることから、学生が学びを深めやすく、実感しやすい授業になっていることが考えられる。

(対応、授業改善案)

- ・必修単位として、理論と実習の講義が組まれているが、双方の授業の内容の整理を行いながら、有機的に理論と実習の往還ができるように授業改善を行いたい。
- ・引き続き最新の情報にアップデートしながら授業に取り組む。

3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・「積極的に促していた・おおむね促していた」の合算は、98%であった。授業内では、レスポンスを使ったアンケート共有、授業のミニッツペーパーによる感想や質問の共有や回答を行い、他者と比較しながら、自分事として考える機会となっていたと考えられる。
- ・9 割以上の学生が自主的な考察・取り組みを実感している。

(対応、授業改善案)

- ・100 名規模の対面の講義形式の授業となり、学生の取り組み状況が見えにくいため、引き続きミニッツペーパーやレスポンスなどを活用していく。

4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・「とても良かった・おおむね良かった」の合算は、98%であった。また、ミニッツペーパーやレスポンスに対する教員コメント、自分自身や身近な話題、最近のトピックを入れ込むことによって、学生の興味関心を得ることができ、高い評価につながったと考える。

(対応、授業改善案)

- ・総合的な評価の高さを継続できるように、授業改善等を行っていききたい。学部特性も踏まえながら、学生とのコミュニケーションを図りながら行う授業展開を検討していききたい。特に、毎回のミニッツペーパーに対するコメント等についても継続して実施したい。
- ・引き続き、学生の興味関心が持てる授業を構成していく。

5)授業一般に関するもの(授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業など)

- ・学生数が多い講義となり、学生とのコミュニケーションが難しい状況であるが、様々なツールを用いることで、高い満足度等を得ることができたと考える。FD 活動等で学んだことを自分自身の講義に落とし込めるよう、次年度以降も取り組んでいきたいと考える。
 - ・大きな教室が利用できたため、140 名近くの学生が受講しても問題なく、授業を進めることができた。スライドは印刷及び manaba にアップデートしたことで予習・復習にもつながったと考える。
- (対応、授業改善案)
- ・学生の現状を把握しながら、学生の興味と伝えたいことのバランスを大切にしながら、自身の運動や健康について興味関心を持てる授業構成を今後も継続していく。
 - ・学生が健康について興味関心を持てる授業構成を今後も継続していく。

体育・健康科学実習

1)受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・「全くしなかった」の割合は、12.0%となり、令和 6 年度前期と比べ 5%ほど減少していた。課題としてレポートを課していることや日常生活での運動実践等も含め授業時間外学習として取り組んでいる様子も窺える。
 - ・全 15 回の授業で紙媒体のレポート課題が 3 回+manaba が 5 つあるため 0 分は考えにくい。
- (対応、授業改善案)
- ・引き続き講義内において、学習したことを実践に移すこと(日常生活で実践すること)の重要性、またそれが授業時間外学習になることの周知を図っていきたい。
 - ・アンケートをとる時間を儲けるまたは、説明する時間を設定する。

2)受講生が実感する学習成果

- ・「十分得られた・おおむね得られた」の合算は 98%であった。部門内での講義 FD や令和 5 年度より作成した manaba 教員用コース、授業計画案の作成、共有等の効果が、引き続き得られたと考える。
- (対応、授業改善案)
- ・学習成果を実感でき、それを日常生活に活かせるような授業内容等の工夫を図っていきたい。
 - ・引き続き最新の情報にアップデートしながら授業に取り組む。

3)授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・「積極的に促していた・おおむね促していた」の合算は、98%であった。部門内での授業改善の効果が見られた。
 - ・9 割以上の学生が自主的な考察・取り組みを実感している。
- (対応、授業改善案)

- ・全学必修授業として、有機的に理論と実習の往還ができるように、授業内容の継続した改善を図りたい。
- ・引き続き継続していく。

4)授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・「とても良かった・おおむね良かった」の合算は、98%であった。例年通り高い評価を得ることができた。
- (対応、授業改善案)
- ・総合的な評価の高さを継続できるように、授業改善等を行っていききたい。特に、日常生活への還元という点において、より学生への促しを図っていききたい。
- ・引き続き継続していく。

5)授業一般に関するもの(授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業など)

- ・アンケートへの回答数が例年に比べ低く、講義内でのアンケートへ回答してもらえそうな工夫が必要である。
- ・学生の評価からも授業構成について満足している。回答率が低かったため、次年度は回答率を上げたい。
- (対応、授業改善案)
- ・非常勤講師の授業も多い中で、アンケートの回答率を増やすために、manaba 等を活用しながら、回答率の向上を目指したい。
- ・授業の中で、アンケートを行う時間を設けるようにしたい。

英語

1)受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・全体として、30分以上90分未満がボリュームゾーン。
- ・回答者数が少ないが、その範囲では、30分以上、2時間未満。
- ・毎回、授業外課題を行わせていたので、1 時間 30 分前後の学習に取り組んでいた。
- ・例年と比較して課題量を増やしたが、概ね全学平均程度の学習量となったようだった。

2)受講生が実感する学習成果

- ・全体として、十分・概ね、の回答。2クラスで、多少のバランスの差がある。
- ・回答者数が少ないが、全体として、十分・概ね、の回答(但し、二つのうち一クラスでマイナス評価が散見)。
- ・学習成果を実感しなかった学生がいたので、全員が実感するような授業を目指したい。
- ・程度の差こそあれ、回答者のほぼ全員が、学習成果を実感してくれている。

3)授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・全体として、積極的に・概ね、促していた、の回答。
- ・回答者数が少ないが、全体として、積極的に・概ね、の回答(但し、二つのうち一クラスでマイナス評価が散見)。
- ・授業後半のグループワークで学習内容を活用させていたので、「積極的に促していた」と「おおむね促していた」が多かった。
- ・グループで発表やディスカッションを行う時間を設けたが、グループ間で学習意欲に差が出ていた。
- ・程度の差こそあれ、回答者11名中11名が、自主的な考察・取り組みを実感してくれている。

4)授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・全体として、とても・概ね、良かった、の回答。
- ・回答者数が少ないが、全体として、とても・概ね、良かった、の回答(但し、二つのうち一クラスでマイナス評価が散見)。
- ・「おおむね良かった」が多く、「とても良かった」が多くなるように検討したい。
- ・当該科目の授業運営は、毎年試行錯誤している。アンケート結果を見て肯定的なコメントが多く、驚いた。
- ・低い評価もあったので、全員から高い評価を受けられるような授業を目指したい。
- ・程度の差こそあれ、回答者11名中10名が、総合的に満足してくれている。

5)授業一般に関するもの(授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業など)

- ・今年度はどうしたとか、テキスト原稿の音読に、抵抗感を持つ受講生が散見される。
- ・課題作文の原稿が出来上がって、提出できても、その原稿を自らの英語音声で復元できるか、というと、全員が必ずしもそうではない。
- ・履修登録していながら、授業に出てこれない学生の方々は心配を抱えておられると想像する、が、教員や係等からの呼掛けでは簡単には変わらない。ご自身からの動きがなければ、学習支援センターとのつながりも得られない模様だ。
- ・理学・工学上の倫理面に焦点を置いたテーマを扱うテキストを利用しているが、そのような内容に関する意見交換への関心が、予想以上に、必ずしも高くないように見受けられる。
- ・学生間で教え合ったり、確認できていた。毎回のペア活動を通してお互いに学びを深められていた。さらに、小テストの実施や課題を毎回提示することで英語に触れる機会を提供できたことが評価されていた。
- ・例年に比べて、英語が苦手な学生が著しく多くいるクラスがあり、こちらも指導に苦戦した。自分自身も教える力が足りないと感じ、どこかで時間を見つけて、学び直しをしたいと思い始めた。

- ・教科書を消化することが本コースの最終的な目標ではないし、教科書はあくまでも学習・練習のツールの一つに過ぎないとしても、もう少し教科書を進めたい。

初修外国語

1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・1.5～3 時間の受講者が 60%を占めており、科目の平均より高い。
- ・30 分未満の学生が数名いるため、manaba のドリルについて、より充実させるとともに、しっかりと取り組むよう指示していきたい。
- ・「1 時間以上時間 30 分未満」が全体の 26%、「1 時間 30 分以上 2 時間未満」が 26%、「2 時間以上 3 時間未満」が 32%、「3 時間以上 4 時間未満」が 6%、「4 時間以上」も 4%あった。

2) 受講生が実感する学習成果

- ・「十分得られた」が 70%、「おおむね得られた」が 30%であった。
- ・概ね学習成果を感じているとの結果だが、前期と比べやや低下している。実際の会話力はかなり成長していると思われるため、効果を実感できるような取り組みを実施していきたい。

3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・積極的に促したが 80%、おおむね促したが 20%であり、科目の平均とほぼ同等である。
- ・学生たちの回答では「積極的に促していた」が 91%、「おおむね促していた」が 9%であった。

4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・とても良かったが 100%であり、科目の平均より高い。自由記述では、文化的な内容を学べたことを評価する意見が多く見られた。
- ・受講生全員がアンケートに回答してくれた。学生たちがおおむね肯定的に評価をしてくれている。毎回小テストとペアワークを実施していることや課題を添削して返していることを高く評価しているようである。
- ・ペア活動を多く取り入れたことや、manaba に設定したドリルについて好評であった。

5) 授業一般に関するもの(授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業など)

- ・すべて対面で実施したので、学生同士の交流ができたことや理解度をその場で確認できたことがよかった。また受講生全員が積極的に取り組んでくれたことがよかった。

日本語・日本語事情

1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・平均 1 時間 30 分以上学習したと答えた学生は 17.6%、1 時間以上 90 分未満は 35.2%だった。
日本語能力の差によって、課題に取り組む時間にも差が生まれると考える。
(対応、授業改善案)

- ・特になし

2) 受講生が実感する学習成果

- ・94%が学習成果が得られたと回答している。
- (対応、授業改善案)
- ・特になし

3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・特になし
- (対応、授業改善案)
- ・特になし

4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・個別に行った指導について、勉強になったという意見が複数あった。
- (対応、授業改善案)
- ・特になし

5) 授業一般に関するもの(授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業など)

- ・短い発表をペアを変えながら何度も行うことで、学生自身が問題点に気づき、修正できるようになった。
- (対応、授業改善案)
- ・特になし

教養教育科目(選択科目、基礎教育入門科目、実験科目)

1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・例年通り、予習課題を課し、かつ、附属図書館をはじめとする図書館で参考になる書籍を借り、それを用いて予習した上で当該書籍も授業に持参することを要求した。提出された予習課題の内容や、あるいは、授業中の取り組みから見て、相当に授業外学習に時間を割いているものと思われる。
- ・30分以上1時間未満という回答が多かった。
- ・「30分以上1時間未満」が44%、「1時間以上1時間30分未満」が13%であった。昨年よりも若干時間外学習時間が減少していた。
- ・少ないように感じるが、実験科目であり、その時間に集中することが重要である。
- (対応、授業改善案)
- ・この授業方法は今後も継続する。同時に、復習をより一層充実させるため、リアクションペーパー提出課題の内容を工夫したい(単に感想を書けばよいのではなく、学習の成果を具体的に書

かせる、など)。

- これまでもレポート等を課していたが、さらに新しい時間学習用のコンテンツを作っていきたい

2)受講生が実感する学習成果

- 授業改善アンケートにおいては、特に重大な問題は指摘されていないように思われる。
- 十分得られた、おおむね得られたという回答が多かった。
- 暗記科目と捉えられがちな「地学」を実学として学ぶことができたと良好であった。
(対応、授業改善案)
- 当初予定よりも授業が遅れがちになったので、その点を改善したい。
- 昨年に比べ「十分得られた」が 56%と大きく増加した、「おおむね得られた」の 44%と合わせると 100%で、すべての学生が学習効果を実験していた。
- 特になし

3)授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- 授業中における発言・質問・議論が極めて活発で、その点に充実感を覚えた受講生が多くいた者と思われる。
- 教員から見ても、発言などに極めてシャープなものが多く、質問については、回答するのに改めて学術的な文献にあたらなければならない水準のものが多々あった。
- 事後学習用の小テストを毎回作成し、授業内容を復習しやすいようにした。
- 学生同士で、考えたことをアウトプットする時間を設けた。
- 「積極的に促していた」が 31%、「おおむね促していた」が 63%、合計 94%で昨年の 97%とほぼ同じだった。昨年に引き続き講義時間中に練習問題を考えさせる時間を十分にとったためと思われる。
- 時間内にできるだけ学生に機会を与えたことが評価されている。
(対応、授業改善案)
- (改めて改善すべき点は思いつかないが)今後も、同様の取り組みがなされるように、臨機応変の対応ができるようにしていきたい。
- 引き続き講義時間中に練習問題を考えさせる時間を取りたいと思う。

4)授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- 特に明言して指摘されたことはないが、回答の自由記述を見る限りでは、満足している受講生が多くいたものと思われる。
- 前の授業回での質問に答える時間を十分に設けていて、疑問が残ったまま進むことがあまりなかったところ。
- 理解が難しい言葉はイラスト付きの資料がある点が非常に良かったと思った。
- 授業内で必ず 1 回グループワークの時間が取られ、みんなの意見を共有でき、リフレッシュでき、

非常によかった。

- ・「とても良かった」が 63%「おおむね良かった」が 37%で、合計 100%となり、昨年度の 100%と同じであった。また「とても良かった」が昨年の 58%より、若干増加していた。

- ・フィールドワークの重要性が評価されている。

(対応、授業改善案)

- ・少なくとも、このクラスにおける現状の満足感を、他のクラスでも同様に感じられるように、試行錯誤したい。
- ・改善点に関しては、学生からの指摘が特になかった。
- ・視覚的にもわかりやすい説明になる様に、今後も心がけたい。
- ・「とても良かった」が増加するように授業運営方法を工夫していきたい。

5)授業一般に関するもの(授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業など)

- ・この科目の後期水曜 1 限クラスは例年、極めて取り組みが優れている。今年度は例年にも増して優れた取り組みがなされ、鹿大に着任以降、授業中の取り組みは最も優れていたと考える。
- ・授業進度が当初の計画よりも遅れがちになったので改善したい。ただ、遅れた原因については、授業中に受講生から極めて優れた質問や発言がなされ、それに対応するのに時間がかかったということが大きい。喜ばしいことではあるが、遅れることについては学生の不利益にもなるので、何については授業中に対応し、何については授業外に対応するかについて、再検討したい。
- ・授業時間外学習の時間が少し少ない様に感じる。
- ・部局の改組に伴い、今年度の受講生数は減少したが、授業に対し熱心な学生が多かった。
- ・フィールドワークは天候に左右されるため、集中での実施は難しい。

(対応、授業改善案)

- ・この科目は毎学期、クラス(=受講生の学部・学科・コースなど)によって取り組みに差があり、その差についてはほとんど固定化している(特に前期の 2 クラス=教育学部生の取り組みが弱い)、その原因を解明したい。
- ・事前学習に関し、もう少し具体的な指示を出すように工夫したい。
- ・特になし

公開日 令和 7 年 6 月 23 日

文責 鹿児島大学共通教育センター

令和 7 年度 FD 委員会委員長 井村隆介